

村上專精と日本近代仏教

オリオン・クラウタウ 編

▼A5判・上製カバー・370頁・本体 五、八〇〇円十税

2021年3月刊行



東京帝国大学印度哲学講座の初代教授として日本の近代仏教学の礎を築いた村上專精。その宗教史上における重要性を、これまで村上について考究してきた研究者らが一堂に会し、はじめて本格的に論じた研究論集。

【目次】

村上專精という課題——はしがきに代えて

序章 統一論とユニテリアン思想
——村上專精の全体像に向けて
(オリオン・クラウタウ)

第七章 村上專精と常盤大定

——東京帝国大学印度哲学講座の開設をめぐって
(渡辺健哉)

第八章 村上專精とその弟子

——『明治維新神仏分離史料』の編纂について
(池田智文)

第一部 伝統の再構築——村上專精の初期思想

第一章 排耶への姿勢——〈実学〉と村上專精の思想形成
(三浦 周)

終章 村上專精論を超えて
(林 淳)

第二章 村上專精『活用講述因明学全書』の思想
(師 茂樹)

付録① 村上專精直筆資料翻刻(オリオン・クラウタウ)

付録② 村上專精著作目録・年譜 (呉 佩遥 編)

第二部 仏教統一論とその思想的意義

第三章 仏教統一論と比較宗教学
——村上專精の「五種」の研究眼をめぐって
(岡田正彦)

あとがき
執筆者・訳者紹介 (オリオン・クラウタウ)

第四章 〈大乘非仏説論争〉再考——村上專精の意図
(荻輪顕量)

◆編者略歴

一九八〇年生まれ。専門は宗教史学(近代日本仏教研究)。東北大学准教授。
著書に『近代日本思想としての仏教史学』(法藏館、二〇二二年)、編著に『戦後歴史学と日本仏教』(法藏館、二〇二二年)、共編著『Buddhism and Modernity: Sources from Nineteenth-Century Japan (University of Hawai'i Press, 2021)』。論文に『日本宗教史学における廃仏毀釈の位相』(岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新——交错する宗教世界』法藏館、二〇一八年)ほか。

第五章 仏教の統一にあらがって
——村上專精への宗門からの批判
(ライアン・ワルド/佐々木隼相 訳)

第三部 統一論の彼方——村上專精の遺産

第六章 修養としての仏教
——村上專精の教育実践とその射程
(オリオン・クラウタウ)

注文書	
(書店印)	
様冊	ご担当
法藏館	オリオン・クラウタウ 編
本体五、八〇〇円十税	村上專精と日本近代仏教
住所	ISBN: 978-4-8318-5561-9 C3015
お電話	お名前

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

近代仏教・思想史